

産業革命前からの気温上昇幅が2°Cと1.5°Cの場合の影響比較

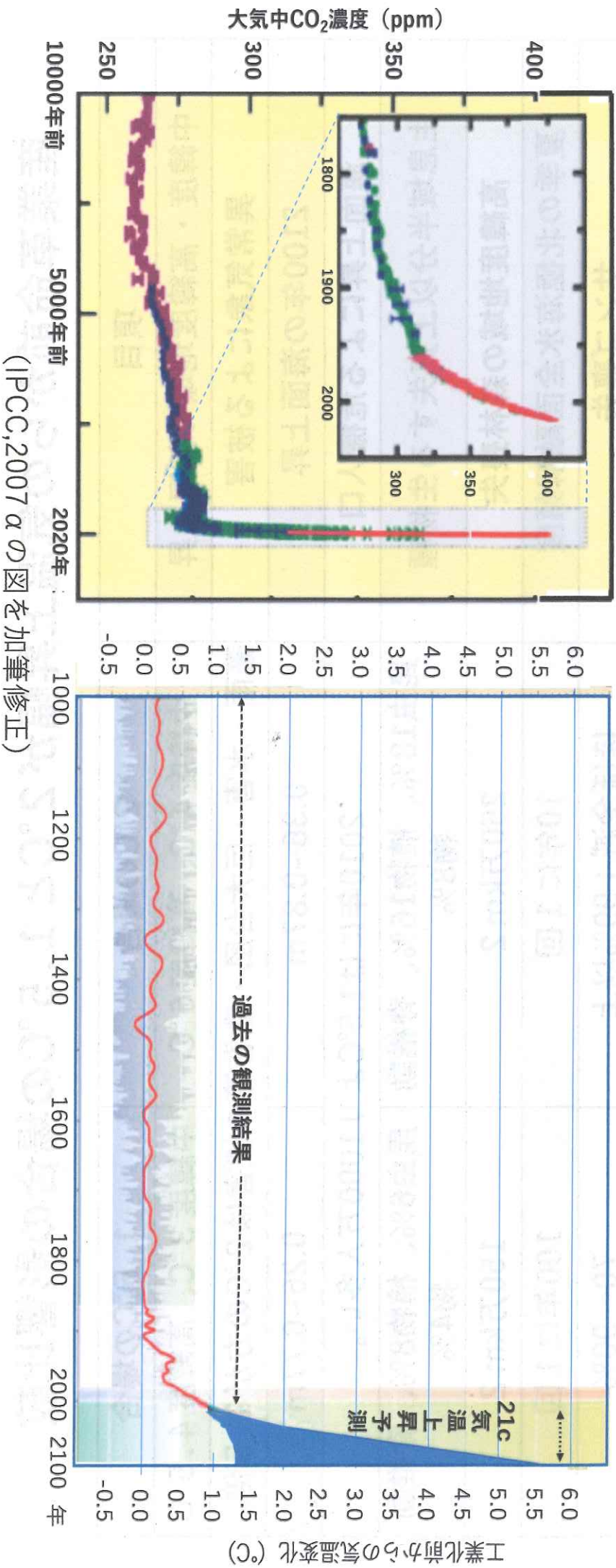
項目	2°Cの場合	1.5°Cの場合
中緯度・高緯度地域の気温上昇	中緯度4°C、高緯度6°C	中緯度3°C、高緯度4.5°C
異常気象による被害	豪雨・水害・巨大台風・竜巻等の被害は2°Cの方が1.5倍。	
2100年の海面上昇	0.36~0.87m	0.26~0.77m
海面上昇による危機人口	2010年には1.5°Cより1000万人多い。	
生息域半分以上喪失する生物種	昆虫18%、植物16%、脊椎動物8%	昆虫6%、植物8%、脊椎動物4%
高緯度地域の森林喪失	250万km ²	150万km ²
夏季の北極海氷全面融解頻度	10年に1回	100年に1回
サンゴ喪失	ほぼ全滅；99%以上	70~90%
漁獲量の減少	300万トン	150万トン

疾病・死亡率等健康影響、食料・水不足

2°Cの場合は1.5°Cより大きい。

1万年前からのCO2の大気中濃度 1千年前からの気温の推移

～地球温暖化防止は待ったなしの段階～大気中CO2濃度；産業革命前の270～280ppmから現在は410ppm以上に増加。これまで以上に地球気温は約1.1℃上昇、このままでは、21世紀に破滅的環境破壊に至る。今、国際社会、各国、各人が最善の対応をとらねばならない「待ったなし」の段階。



(IPCC, 2007 α の図を加筆修正)

凍土地帯で発生するメタンガスによる異常現象

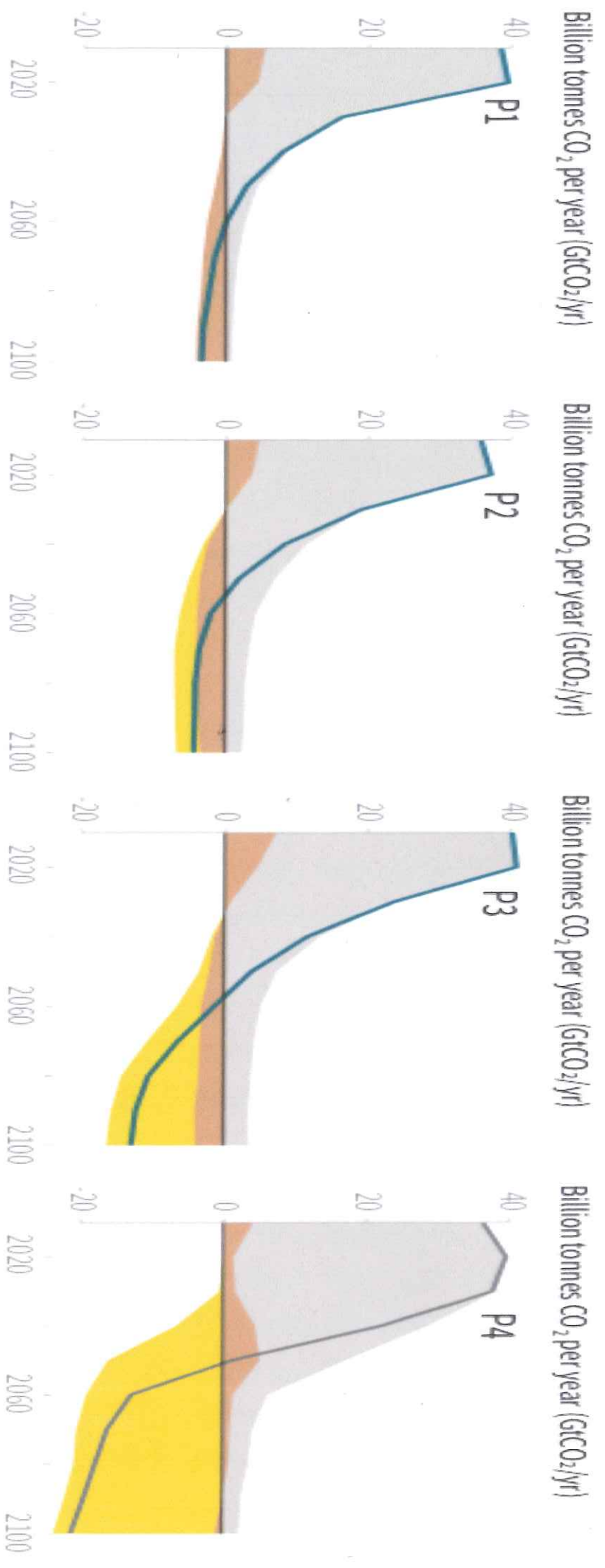
地下で発生した大量のメタンガスが充満して地表が盛り上がった場所（写真左下）が7000箇所もある。すでにメタンが噴出、破裂した場所には巨大なクレーターが出現している（写真右下）。凍土融解した場所にパイプを突き刺し、火をつけると燃え上がる（右上）。



(OWLconnected:<http://owlconnected.com/archives/bubble-bubble-soil-trouble-methane-siberia>)

気温上昇1.5°Cにするための世界のCO2年間排出量削減過程

- 「化石燃料と産業」
- 農業・森林・土地利用
- CCS(CO2回収・貯蔵)
- 付バイオマスエネルギー利用



ピークアウト時期が遅くなるとより急速なCO2削減が必要